

## 1. [雲南市新庁舎建設基本計画（案）について]

吉田町会場

**Q7**：現在の庁舎では部署が離れ離れで効率が悪いことから、新庁舎の建設はぜひ必要だが、建設部が建物の外になるので非効率だ。

A：建設部が県合同庁舎の2階に入り、合庁5階は県と市が共有して使用することで調整している。平成20年3月に庁舎建設地の場所について報告書が出されたが、選定では大きく6項目が検討された。全体的な事業費を圧縮できるかという観点の他にも、防災拠点や交通の要衝であるかなどを検討され、最終的に建設費が圧縮できることをメリットとして選定された。建物内に建設部を入れた場合は新たに4億円かかる。(総務部長)

再質問：4億円もかかるとは、納得がいかないが、一緒な庁舎にあれば4億円以上のものが生まれると思う。

A：類似団体の比較では、職員一人当たりの床面積が27.1㎡、㎡単価が31万円だった。この想定での計算で約4億円となる。(総務部長)

**Q8**：新庁舎の建設候補地は、堤防沿いの低いところに位置する。尾原ダムの放流もあり、以前は沼地であったことなどを伺うと立地が心配だ。

A：新庁舎の建設用地は、昭和39・47年の豪雨災害の時には浸水したが、請川を改修した成果で平成18年の豪雨に際しては被災しなかった。尾原ダムの効果としては、今年5月の豪雨で斐伊川の水位が68cm程度低くなったと試算されている。沼地であったことの対応としては、基礎部分の工事資料を取り寄せて分析をしている。建設費は、類似団体の数値を基にしたもので、工事工法は今後検討する。(総務部長)

A：昭和36年、39年、47年に災害があったが、請川の河川改修の結果、平成18年の災害時には浸水を免れた。請川は、30年間かけて河川の拡幅工事がされ、合同庁舎や雇用促進住宅が建った。(副市長)